

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 9 月 16 日現在

機関番号：22101

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19H03946

研究課題名（和文）SANE-J(日本版性暴力被害者支援看護師)教育プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of SANE-J (Japanese Version of Sexual Assault Nurses Examiner) Education Program

研究代表者

加納 尚美 (KANO, NAOMI)

茨城県立医療大学・保健医療学部・教授

研究者番号：40202858

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,530,000円

研究成果の概要（和文）：eラーニングによる性暴力対応看護の基礎研修プログラムを開発し、評価することを目的とした。全国のワンストップ支援センターの連携施設に、募集条件に該当する看護師へのポスター掲示を依頼した。協力者には12セッションの学習用動画の受講前後にアンケートを依頼した。全国45施設から協力が得られ、研究協力者は84名であった。プログラムの満足度は高く詳細な学習評価の示唆が得られ、有効な内容だったことが確認された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

性暴力被害への社会的関心の高まる昨今、日本での性暴力対応看護の基礎研修プログラムを開発し、評価するを行った。全国の看護師が性暴力被害者に対応する際に必要とされる基本的な学習内容として12のセッションの動画を作成した。性暴力に対応している全国医療機関45施設から協力が得られ、84名の看護師が受講した。概ね各セッションにおける満足度は高く質的にも学習評価の示唆が得られ、プログラムの普及が望まれる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of the study was to develop and evaluate an e-learning basic training program for nurses in response to sexual violence. We asked nurses who met the recruitment criteria to post posters at partner facilities of One-Stop Support Centers across the country. Collaborators were asked to complete a questionnaire before and after attending 12 sessions of learning videos. Forty-five facilities nationwide cooperated, resulting in 84 research collaborators. Satisfaction with the program was high, and detailed learning evaluation suggestions were obtained, confirming that the content of the program was effective.

研究分野：生涯発達看護

キーワード：性暴力 被害者支援 eラーニング 性暴力対応看護師 SANE-J

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究では、日本独自の性暴力被害者支援看護師養成 (SANE, Sexual Assault Nurse Examiner) のための教育基準を確立し、汎用性のある日本版性暴力被害者支援看護師 (SANE-J, Sexual Assault Nurse Examiner-Japan) 教育プログラムを開発することを目的としている。日本では 2000 年以降、「特定非営利活動法人女性の安全と健康のための支援教育センター」および「女性と子どものライフケア研究所」の 2 団体により SANE 研修が行われ、SANE 研修修了生を輩出している。しかし、統一した教育基準や全国各地での学習機会はない。そこで、これまでの SANE 教育を基盤とした教育基準を作成、教材を整備して、遠隔教育 (e-learning) による学習の機会を確立し評価を行う。これにより全国的な SANE-J 認定基準の基礎を作り、研修者の拡大を図り、全国の性暴力被害者のためのワンストップセンターや医療機関等での性暴力被害者支援における看護の社会的貢献が期待できると考えた。

2. 研究の目的

本研究は、e ラーニングによる SANE-J (日本版性暴力対応看護師^{注1)}) の基礎研修プログラムを開発し、完成した教材を評価することを目的とした。

性暴力被害者支援をする医療関係者に求められる知識と技術、スキルは増大する一方で、実践の土台となる性暴力の概念や普遍的知識などの基本部分は必ずしも明確になっていない。また、全国に設置された性暴力・性犯罪被害者のためのワンストップ支援センター (以下、ワンストップ支援センター) における看護師を含めた医療関係者の研修は十分に行き渡っていない。そこで、SANE-J 教育プログラムの基礎的内容に絞り、教材を開発し、実施及び評価を行った。

注 1)2020 年度に日本フォレンジック看護学会が、それまでの「日本版性暴力被害者支援看護師」を「日本版性暴力対応看護」という名称に変更したため、研究目的で用いる名称とした。

3. 研究の方法

SANE-J (Sexual Assault Nurse Examiner-Japan: 日本版性暴力対応看護師) プログラム策定のためのコンピテンシーを作成した。次に、e ラーニングによる性暴力対応看護のための基礎的な研修プログラムを作成した。

コンテンツは、4 つのセッションと各 20 分程度の 3 つの動画、合計 12 動画を視聴できるように e ラーニングシステムを構築した。具体的なコンテンツは、4 つのセッションと各 20 分程度の 3 つの動画、合計 12 動画であった。内容は、セッション 1 (S-1): 性暴力の定義 性暴力の実態 性暴力をめぐる社会構造。セッション 2 (S-2): リプロダクティブヘルス/ ライツ マイノリティと性暴力 性暴力被害のもたらす影響 (トラウマ)。セッション 3 (S-3): 性暴力に対応する看護の役割 二次被害の防止 トラウマインフォームドケア (TIC)。セッション 4 (S-4): 急性期対応 継続支援 性暴力と法律、であった。

対象は全国のワンストップセンターとの性暴力被害者連携施設に勤務する看護師であった。全国の 390 施設に郵送にて研究協力を依頼した。承諾を得た 45 施設宛てにポスターを送り、関心のある看護職は研究用の QR コードから申込みを行った。参加者には視聴前後に 12 項目のコンテンツの理解 (4 段階尺度) を含めたアンケート、各セッションの後に教材評価に関する記述アンケートを依頼した。研究期間は、2023 年 11 月 ~ 2024 年 1 月であった。

4. 研究成果

研究参加者として、84名の看護職が申込み、79名から事前アンケートの回答を得た。最後のアンケートまでの回答者は25名(32%)であった。25名の平均年齢は46.8歳(25~59歳)、職種は看護師が15名、助産師が20名であった。被害者対応の経験のある者は10名(40%)、職場内での性暴力対応の研修を受けているのは1名、外部での研修を受けているのは8名であった。

コンテンツ12項目に関する理解度を「1. 認識している」「2. よく知っている」「3. 活用できる」「4. マスターしている」を1~4点に換算して研修前は平均1.24点、研修後は1.99点となり、対応のあるt検定にて $p < 0.01$ であり有意な上昇がみられた。また、修了時の全体の満足度は5点満点で平均4.08(3~5)点であった。記述の感想においても肯定的な内容などの記述例として、「わかりやすい」「何度も学び直しができる」「関心を持ちやすい」などが多かった。

事前アンケート回答者79人のうち、セッションへの参加者は61人であった。セッション毎の参加者と評価項目の平均点を表1に示した。各項目の平均点は5点満点中4.0以上であり、概ね参加者には効果的な内容であった。今後、セッション毎に「最も心に残ること、役に立つと思われた内容」の記述回答の分析によりさらに内容評価を深める必要がある。

表1 セッション毎の評価

セッション種類	S - 1	S - 2	S - 3	S - 4
参加者数(人)	59	59	52	54
評価項目平均点(1~5点、高い程肯定的、小数点第2位まで表示)				
満足度	4.02	4.02	4.19	4.35
仕事に役立つ	4.08	4.11	4.5	4.33
視聴覚教材は効果的	4.08	4.10	4.33	4.43
資料のわかりやすさ	4.12	4.13	4.41	4.45
まとまった内容	4.24	4.25	4.37	4.51
よく準備された内容	4.22	4.23	4.43	4.55
記述回答者(人):最も心に残ること、今後役立つこと	56	55	41	46

以上の結果から、eラーニングによる性暴力対応看護の基礎研修の内容については参加者の評価は高く、研修前後の理解度の平均の差は有意な上昇が認められた。これらからeラーニングによるSANE-J(日本版性暴力対応看護師¹⁾)の基礎研修プログラムとして一定の効果が確認できた。最後まで受講した参加者においては、eラーニングによる学習の効果があつたと考えられるが、受講率向上が課題となる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Mari Yamanami, Naomi Kano	4. 巻 15
2. 論文標題 Development of a health behavior model for females with a history of gestational diabetes to promote healthy dietary habits and glucose tolerance testing	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 International Journal of Nursing and Midwifery	6. 最初と最後の頁 16-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5892/IJNM2023.0525	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 石引 かずみ, 家吉 望み, 加納 尚美	4. 巻 43
2. 論文標題 開業助産師が捉えている分娩期におけるWomen-centered careとその実践	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本看護科学会誌	6. 最初と最後の頁 831-841
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5630/jans.43.831	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 家吉 望み, 加納 尚美	4. 巻 43
2. 論文標題 性暴力被害直後の女性支援において産婦人科医療で求められる看護実践能力	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本看護科学会誌	6. 最初と最後の頁 18-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5630/jans.43.18	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 深見 美希, 山波 真理, 加納 尚美	4. 巻 64
2. 論文標題 子育て世代包括支援センターの保健師による精神疾患合併妊産婦への支援と助産師との連携	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 母性衛生	6. 最初と最後の頁 130-137
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 楊 蕾, 加納 尚美	4. 巻 40
2. 論文標題 日本における中国人女性の出産体験に関する一考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 茨城県母性衛生学会誌	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤まゆみ, 加納尚美	4. 巻 39
2. 論文標題 出産に立ち会うこどもの心 女兒2事例の分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 茨城県母性衛生学会誌	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金澤悠喜, 加納尚美	4. 巻 60
2. 論文標題 第1子誕生後の夫からみた夫婦関係	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 母性衛生	6. 最初と最後の頁 560-568
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金澤 悠喜, 加納 尚美	4. 巻 60(4号)
2. 論文標題 第1子誕生1年後の夫からみた夫婦関係	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 母性衛生	6. 最初と最後の頁 560-568
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂間 伊津美, 加納 尚美, 川野 道宏	4. 巻 35(3号)
2. 論文標題 新生児の泣きに関する教育が泣き声聴取時の認知・心理・生理的反応に及ぼす影響 女子大学生を対象とした調査から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Health Sciences	6. 最初と最後の頁 201-211
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加納尚美	4. 巻 50(5号)
2. 論文標題 性暴力被害者への支援 現状と課題】暴力と健康、犯罪被害問題を看護の知につなぐ SANE養成の取り組み	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地域保健	6. 最初と最後の頁 8-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計17件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 5件)

1. 発表者名 Naomi Kano, Nanako Yoneyama
2. 発表標題 Progress of forensic nursing in Japan
3. 学会等名 76 Annual Conference, American Association of Forensic Science (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Chihoko Sankai, Mari Yamanami, Naomi Kuramoto, Naomi Kano
2. 発表標題 Traditional stereotypes in child rearing
3. 学会等名 11 Conference, All Together Better Health (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 加納尚美
2. 発表標題 日本におけるフォレンジック看護学の歩み
3. 学会等名 第107次日本法医学会学術全国集会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 加納尚美
2. 発表標題 わたしたちの10年の歩み
3. 学会等名 第10回日本フォレンジック看護学科九（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 加納尚美
2. 発表標題 フォレンジック看護の視点から考える性暴力被害者支援
3. 学会等名 セックス・カウンセリング研修会抄録集（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山波 真理, 倉本 尚美, 山海 千保子, 山本 潤, 山口 忍, 加納 尚美
2. 発表標題 産後うつ病による児童虐待死亡事例の再検証
3. 学会等名 第10回日本フォレンジック看護学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 加納 尚美, 家吉 望み, 主田 英之, 三隅 順子, 米山 奈奈子
2. 発表標題 児童虐待死亡事例検討報告書に関する再検証 多職種連携協働の視点から
3. 学会等名 第10回日本フォレンジック看護学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Naomi Kano, Nanako Yoneyama
2. 発表標題 Progress of forensic nursing in Japan
3. 学会等名 76 Annual Conference, American Association of Forensic Science (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Chihoko Sankai, Mari Yamanami, Naomi Kuramoto, Naomi Kano
2. 発表標題 Traditional stereotypes in child rearing
3. 学会等名 11 Conference, All Together Better Health (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 深見 美希, 山波 真理, 土居岸 悠奈, 加納 尚美
2. 発表標題 精神疾患合併妊産婦への支援と連携に関する文献検討
3. 学会等名 日本フォレンジック看護学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 加納 尚美, 家吉 望み, 長江 美代子, 三隅 順子, 米山 奈奈子
2. 発表標題 日本における性暴力対応看護師のためのコア・カリキュラムの検討
3. 学会等名 日本フォレンジック看護学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 加納 尚美, 家吉 望み, 長江 美代子, 三隅 順子, 米山 奈奈子
2. 発表標題 日本における性暴力対応看護師のためのコア・カリキュラムの検討
3. 学会等名 第8回日本フォレンジック看護学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 深見 美希, 山波 真理, 土居岸 悠奈, 加納 尚美
2. 発表標題 精神疾患合併妊産婦への支援と連携に関する文献検討
3. 学会等名 第8回日本フォレンジック看護学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ieyoshi N, Kano N
2. 発表標題 Ability for nurses in care of Sexual Assault of Obstetrics and Gynecology medical care in Japan
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (Osaka) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鶴見三代子, 糸嶺一郎, 高村祐子, 綾部明江, 山口忍, 加納尚美
2. 発表標題 訪問看護の経験年数別にみた暴力被害による訪問看護活動継続意欲への影響 - I県の訪問看護事業所における調査より
3. 学会等名 第7回日本フォレンジック看護学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 土居岸悠奈, 加納尚美
2. 発表標題 助産学実習における学生のストレスフルな体験と実習支援の検討
3. 学会等名 第7回日本フォレンジック看護学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 金澤悠喜, 叶野智哉, 松田英子, 加納尚美
2. 発表標題 第1子誕生後における公正理論からみる夫婦関係
3. 学会等名 第40回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 ローズ・E・コンサンティノ他著 柳井圭子監訳	4. 発行年 2020年
2. 出版社 福村出版	5. 総ページ数 618
3. 書名 フォレンジック看護ハンドブック(翻訳)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

茨城県立医療大学 e-learning
https://jsane.jp/?page_id=206
 J-SANE e-learning 茨城県立医療大学
<https://jsane.jp/>
 茨城県立医療大学 e-Learning システム
<https://jsane.jp>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	家吉 望み (IEYOSHI NOZOI) (00582248)	東京有明医療大学・看護学部・准教授 (32821)	
研究分担者	笠井 久美 (KASAI KUMI) (10795339)	茨城県立医療大学・保健医療学部・助教 (22101)	
研究分担者	米山 奈奈子 (YONEYAMA NANAKO) (20276877)	秋田大学・医学系研究科・教授 (11401)	
研究分担者	岩井 浩一 (IWAI KOICHI) (30167275)	茨城県立医療大学・保健医療学部・教授 (22101)	
研究分担者	李 節子 (RI SETUKO) (30259072)	長崎県立大学・看護栄養学部・教授 (27301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	長江 美代子 (NAGAE MIYOKO) (40418869)	日本福祉大学・看護学部・教授 (33918)	
研究分担者	藤田 景子 (FUJITA KEIKO) (60587418)	静岡県立大学・看護学部・教授 (23803)	
研究分担者	三隅 順子 (MISUMI JUNNKO) (80282755)	東京医科歯科大学・大学院保健衛生学研究科・講師 (12602)	
研究分担者	山波 真理 (YAMANAMI MARI) (80736851)	茨城県立医療大学・保健医療学部・准教授 (22101)	
研究分担者	金澤 悠喜 (KANAZAWA YUKI) (80812833)	慶応大学・看護医療学部・専任講師 (12102)	
研究分担者	山海 千保子 (SANNKAI CHIHOKO) (90438101)	茨城県立医療大学・保健医療学部・准教授 (22101)	
研究分担者	藤岡 寛 (FUJIOKA HIROSHI) (90555327)	茨城県立医療大学・保健医療学部・教授 (22101)	
研究分担者	齋藤 佑見子 (SAITO YUMIKO) (40849296)	茨城県立医療大学・保健医療学部・助教 (22101)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------